

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習Ⅱ-1		必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山鹿 隆義 他	C307	t.yamaga	月・火曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	作業療法演習Ⅱ-1 では、2 年生までに習得した専門知識の定着と体系的理解、および、評価、統合と解釈、焦点化、目標設定までの習熟を目標とする。授業方法は課題・双方向型の遠隔授業で実施する。				
学習上の助言	本科目では 2 年次までに学習した専門基礎群ならびに専門科目群の修得および事例の病態理解から実際の評価手技など、作業療法過程の一部を習得することが求められる。そのため、学習計画の立案と実行が求められる。				
教科書	特になし				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	これまで学習してきた知識を、臨床に即して活用することができる			OT (2)、 OT (3)	
②	事例に対して、統合と解釈を含めた評価を適切に行うことができる。			OT (2)、 OT (3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)		
1	オリエンテーションー今後の学習の仕方	講義	復習：学習計画の立案	1	
2	神経内科疾患・高次脳機能障害についてまとめる フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布資料の問題についてまとめる	3	
3	整形疾患・内科疾患についてまとめる フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布資料の問題についてまとめる	3	
4	精神疾患・老年期・発達障害についてまとめる フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布資料の問題についてまとめる	3	
5	運動学・作業療法評価学についてまとめる フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布資料の問題についてまとめる	3	
6	事例基盤型学習 (身体)：評価計画の立案 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
7	事例基盤型学習 (身体)：評価の吟味と解釈 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
8	事例基盤型学習 (身体)：目標設定 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	1	
9	事例基盤型学習 (身体)：事例のまとめ フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
10	事例基盤型学習 (老年)：評価計画の立案 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
11	事例基盤型学習 (老年)：評価の吟味と解釈 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
12	事例基盤型学習 (老年)：目標設定 フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	
13	事例基盤型学習 (老年)：事例のまとめ フィードバック：授業時間内で実施 意見交換：授業時間内で実施	印刷教材等による授業	配布された事例について検討する	2	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

14	精神科作業療法の実際 I	同時双方向型授業	復習：学習内容の整理	3					
15	精神科作業療法の実際 II	同時双方向型授業	復習：学習内容の整理	2					
試	期末試験								
達成度評価									
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計		
		70	0	20	10	0	100		
総合力指標	知識・技術力	70	0	5	0	0	75		
	思考・推論・創造する力	0	0	10	0	0	10		
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0		
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5		
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0		
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0		
	問題を発見・解決する力	0	0	0	10	0	10		
評価のポイント					フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①	✓	試験のための学習資料を事前に配布し、それを改変した問題を出題する。				試験後に実施		
	②	✓							
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
レポート	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
成果発表	①	✓	事例に関して、グループ学習を通して、臨床実習 I で必要となる基本的な知的スキルの習熟度について問う。				各クラスの検討内容の発表・討論で実施する		
	②	✓							
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
ポートフォリオ	①	✓	ルーブリックに従って内容を評価する。期限までの提出がなければ、減点とする。				その都度実施する。		
	②	✓							
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
その他	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
備 考									
<p>教員：◎山鹿隆義、小沢健一、中西康祐、榎田哲弥、浅野克俊、池谷政直、小川麻里子、海保享代、クラスごとの演習となるため、シラバスの変更および日程の変更の可能性がある。その場合は、クラス担当の教員よりアナウンスする。</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨します。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。</p> <p>この科目の単位修得が作業療法演習 II・2 と臨床実習 I の履修要件である。</p> <p>教員の実務経験：本科目の担当教員は 5 年以上の臨床業務経験がある。</p> <p>実践的授業の内容：テキストと併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。</p>									